



『知的障害と発達障害の子どもたち』
精神科医・医学博士 本田秀夫・著者
SB 新書 990円

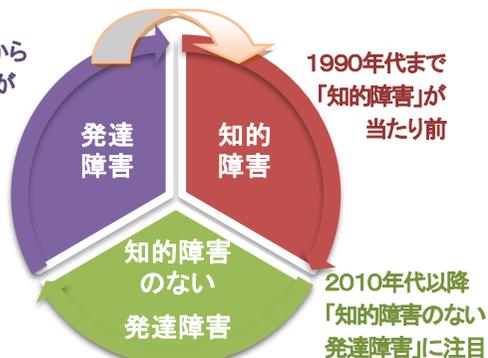
裏面で紹介した
Q-SACCSの
研究代表者です。

「知的障害×発達障害」この2つの障害が重なることで、
どんな特性が生まれるのか？

今、あらためて注目したい「発達の遅れ」

2020年代から
「発達障害」が
当たり前

1990年代まで
「知的障害」が
当たり前



知的障害の可能性も 発達障害の可能性も

「早く」気付いて 「ゆっくり」育てる

【目次】

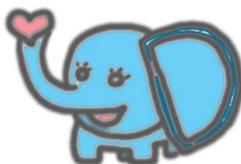
- 第1章 どうして「早く」支援するのか？
- 第2章 発達障害・知的障害の基本を知る
- 第3章 知的障害は「ゆっくり」
- 第4章 「ゆっくり」にみえない子どもたち
- 第5章 「ゆっくり」な子どもの育て方
- 第6章 「ゆっくり」な子どもの進路選択

我が家には保護犬が二匹いて、長男がとてもかわいがっています。ラッキーは16歳6か月。ヨボヨボのおじいちゃんになりました。福ちゃんもオスです。息子に「クリスマスプレゼント、何か欲しい物あるの？」と聞いてみると「俺は、ラッキーと福ちゃんがいってくれたら、何もいらない」と。いい子だと思われないとか、そんなことを考える知恵はないので、本心な返りましょう。素敵な返りたら手に負えませぬが、落ち着いているときは優しい子なのです。この一年も、あっという間に終わってしまいました。皆様、よいお年をお迎えください。(亜)

ダンボクラブでは、発達障がいについて広く理解していただくための啓発活動を行っています。ご賛同いただける方の温かいご支援を募集しています。ボランティア活動にご興味のある方、ご寄付いただけます方は、下記までご連絡下さい。

お問い合わせ: damboclub@gmail.com
お振込口座: 伊予銀行 小栗支店 普通 1321818

ダンボクラブHP → <https://www.dunboclub.com/>



ダンボ通信

☆第194号☆
発行日: 2025年12月

****ダンボクラブについて****

発達障がいがどのようなものか知っていますか？
私たちは、そんな子どもたちを育てています。
この広報は、ダンボクラブがどんな活動をしているのか知っていただくために作りました。



☆☆☆活動報告☆☆☆

★保護者会 11/22(土)★

臨床発達心理士、特別支援教育士で教諭の新開多恵先生を囲んで、勉強会を行いました。市町村の支援体制を可視化するためのツールである Q-SACCS やヤングケアラーの支援が話題に上がりました。また、各保護者から、それぞれのお子さんの近況報告がありました。

★成人当事者会「ワンピース」 11/16(日)★

今回は、みんなで出かけをして、しまのテーブルごごしま de BBQ と3つの SST を実施しました。…参加者 16名(うちスタッフ3名) 講師1名

天気は快晴。予定通り、「しまのテーブルごごしま」に到着しました。

Part1 【みんなで食べると楽しいよ】

3つの班に分かれ、「みんなで楽しむことを目的とした食事のための取り組み」について意見を出し合いました。(プレインストーミング形式) まとまった内容を発表し、お待ちかねのBBQ。2つのBBQコンロを囲み、焼く人、食べる人が程よいタイミングで交替し合いながら楽しみました。食後には、メンバーからの手作りスイーツの差し入れを笑顔でほおぼる姿が見られました。

Part2 【セルフケアについて】

セルフケア上手を目指すために…

- ① 完璧主義をゆるめよう
- ② SOS 上手になろう
- ③ 根を詰めずに休憩をとろう

Part3 【笑いヨガ】

「笑いヨガ」で身体がポカポカになり、残った時間は、恒例の「フルーツバスケット」で締めました。





Q-SACCS とは？

「発達障害の地域支援システムの簡易構造評価」

- ①市区町村の取り組みの価値(強み・特色)を確認できる。
- ②支援体制の課題が明らかになり、課題解決に向けた取り組み(複数年での Plan-Do-Check-Action(PDCA))を導入しやすくなる。
- ③市区町村内で、新たな事業の創出や取り組みをスタートさせるための根拠が明確になる。

横軸を伸ばすことで、高齢期支援までの移行を見据えた市区町村の支援体制づくりを見える化することができる

記入例	<市町村名 > <人口： 人> <年間出生： 人>	0～3歳	4～6歳	7～15歳
レベルⅠ すべての子どもと家族を対象とした取り組み	レベルⅠ (毎日) 日常生活水準	○乳幼児健診 青: 事業化できている 質を担保しつつ、均てん化されている=強み	△保育園・幼稚園・認定こども園	○小学校・中学校
レベルⅡ 特定の子どもと家族を対象とした取り組み	共時的 インターフェイス (情報共有、紹介等) 5W1H	○新生児訪問 ○親子クラブ ○乳幼児心の健康相談 ○要観察児教室 ○養育支援家庭訪問事業	△保育所等巡回相談事業	○特別支援教育コーディネーター △保育所等巡回相談事業
レベルⅢ 医療的ニーズのある子どもと家族を対象とした取り組み	レベルⅡ (定期的) 専門療育的支援	○発達相談 ○発達支援相談 (保健所)	○発達障害専門相談 ○児童発達支援事業所	○発達障害専門相談 ○特別支援学校 ○特別支援学級 ○通級指導教室 □放課後等デイサービス
	共時的 インターフェイス (情報共有、紹介等) 5W1H	○保健師の受診同行	○保健師の受診同行 ○サポートブック	
	レベルⅢ 医療的支援	□A病院<市内> ○B病院<市外>	□A病院<市内> ○B病院<市外>	□A病院<市内> ○B病院<市外>

レベルⅠ
すべての子どもと家族を対象とした取り組み

レベルⅡ
特定の子どもと家族を対象とした取り組み

レベルⅢ
医療的ニーズのある子どもと家族を対象とした取り組み

青: 事業化できている
質を担保しつつ、均てん化されている=強み

○サポートブック
○保健師の引継ぎ

赤: 明確化が課題
手続きが不明確(個人に依存している)

緑: 機能強化が課題
質の向上・マンパワーの不足

○: 事業の全てを自治体職員で実施(公設公営)

△: 一部の機能を外部に委託して実施(公設民営)

□: 全てを外部に委託して実施(民営)

記入法

①白い四角の枠に記入
・市区町村がすでに作成している体制図(「ポンチ絵」とも呼ぶ)を準備
・横軸に沿って、年齢帯ごとの事業・取り組み・機関を転記
・縦軸は、レベルⅠからⅢまでに振り分けて転記

②黄色い四角の枠に記入: インターフェイス(つなぎ)を担う事業や取り組みを記入
・「共時的インターフェイス」……紹介や情報共有などの時間軸を同じくする
・「継時的インターフェイス」……引き継ぎなど時間軸が移行行政内の管轄が移行する

③記号を記入(○・△・□): 白い枠・黄色い枠に記入した事業・取り組み・機関の位置づけを整理する
④色分け(青・赤・緑): 自治体の発達支援システムの強みと課題を整理するため